

## サクランボ産地における観光農業の維持システム—寒河江市三泉地区を事例に—

### Sustainable Systems of Agri-tourism in a Cherry-growing Area: A Case Study of the Miizumi Area, Sagae City

林 琢也<sup>1\*</sup>

Takuya Hayashi<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>首都大学東京

<sup>1</sup>Tokyo Metropolitan University

#### 1. はじめに

観光農業とは、農園内での農作業や収穫体験を観光と結びつけたもので、農産物の販売促進を図るため、戦略的に多数の観光客を受け入れる農業の形態である。新鮮な果実や野菜を提供するとともに、消費者あるいは観光客と直に取引を行うことで輸送コストや収穫作業の省力化を図ることが可能になる。

観光農業は、農家側にとって販路の拡大や顧客獲得の契機となる可能性が高い半面、大量の流通ロットを確保することで取引を円滑に進める農協などの組織にとっては、産地としての一体感を損なう存在とみなされる場合もある。しかしながら、農産物における流通・販売経路の多様化と市場外流通の進展、グリーン・ツーリズムや農村観光の隆盛といった昨今の状況をみると、こうした動きを止めることなく、共存・共栄のための方途やそのための農家と農協、農家同士の関係のあり方を模索していくことが必要といえる。

そこで、本研究はサクランボ産地を事例に観光農業の維持システムを明らかにすることを目的とする。対象地域としては、サクランボ栽培の最も盛んな山形県村山地方において、サクランボ狩りや直売といった観光農業に積極的に取り組む寒河江市（三泉地区）を取り上げる。

寒河江市の農業産出額（2005年）は82.9億円で、このうち、50.5%（41.9億円）が果実による収益である。なかでもサクランボの占める割合が最も大きい。寒河江市は、1988年にサクランボの原産地トルコのギレスン市と姉妹都市を結んでおり、1992年5月には、サクランボをモチーフとしたテーマパーク「チェリーランド」を開園させ、産業・文化・観光振興の拠点・交流の場として活用している。

#### 2. 寒河江市における観光農業の特性

寒河江市における観光農業は、1960年代後半に、農家が仙台市周辺の旅行会社からサクランボ狩りの要請を受け、都市住民を農園に招き入れたことに始まる。その後、1980年代に、広範な観光需要への対応（窓口業務）や市内各地の観光農園のサービスや価格設定の平準化を図るため、農協に観光農業の運営窓口が設置され、組織化が進められてきた。

農協は、サクランボの時期になると、各種メディアに寒河江市のサクランボを取り上げてもらうことで、販路の開拓や寒河江のサクランボに対する認知度の向上を図っている。また、観光農園経営農家（以下、観光農家）にとっても、農協に運営窓口があることで、運営面での負担の軽減や、宣伝・集客を容易に行うことができるといった利点を有している。以下では最大の集客力と販売実績をもつ三泉地区を例に観光農業の維持システムについて考察する。

### 3. 地区内の農家をつなぐ栽培技術の継承と共有

三泉地区の観光農業は三泉観光さくらんぼ組合によって担われている。2007年時点で15戸の農家が参加している。また、1990年代半ば以降、現在にいたるまで毎年2万人程度のサクランボ狩りの観光客数を維持し、順調に経営を行っている。この背景には、観光客のニーズに合わせたサクランボ狩りメニューの多様化やハウスサクランボの活用、組織の結束力が大きく関わっていると同時に、組合長W氏のリーダーシップが影響している。W氏は、非観光農家も含めて三泉のサクランボ全体の評価を高めていくことが重要と考え、地区内の農業者の栽培技術の向上を図るための機会と場を設け、若手農業者の育成を積極的に行ってきた。これにより、地区内の農家は、多くの品評会やコンクールで最優秀賞などを獲得し、三泉地区は、良質のサクランボを栽培する地域としての認知度をさらに高めていった。さらに多様な出荷・販売体制をとる農家が相互の経営観を尊重するようになり、地区内のサクランボ農家の連帯感を強めることに貢献した。

寒河江市では、観光農業は、サクランボを直接、消費者に知らしめるためのある種のショーウィンドウのような役割を担っており、それが、産地の知名度を向上させている。また、宣伝に見合ったサクランボを多様な流通経路を通して提供することで、相乗効果を生み、市場流通と市場外流通双方の発展が図られている。

### 4. おわりに

ブリコラージュされた農村空間であれ、ありのままの農村であれ、農村景観を形成するアクターとして農家は重要な役割を担っている。とくに農村景観や農村のもつイメージを一つの「商品」として農村観光を進めていく場合には、同一集落（地域）内に居住する観光農家と非観光農家の合意形成は、消費の対象としての農村空間を演出する上でも重要になってくる。このため、本研究で示した栽培技術の継承・共有のような活動を契機として互いの経営観を尊重し、高め合うための機会や場を作り上げていくことは、大規模産地における観光農業の発展はもちろんのこと、農村空間の商品化の問題を考えていく上でも、不可欠な視点を提供しているといえる。

キーワード:観光農業,サクランボ産地,維持システム,栽培技術の継承と共有,山形県寒河江市

Keywords: Agri-tourism, Cherry-growing Area, Sustainable System, Succession and Sharing of Cultivation Technique, Sagae City, Yamagata Prefecture